

シリーズ

沼津兵学校とその人材

33

沼津病院がすすめた健康食品

写真は「能き物」と題された木

体に悪いことを注意している。

印刷の一枚史料である。「陸軍医局」とあるので、沼津兵学校の付属施設として明治二年（一八六九）三月に設立され、同年八月に沼津病院と改称したその印刷物であったことがわかる。

この史料は原渡辺家（八郎）文書に含まれていたが、同じ史料は西沢田平松家文書中にも残されており、沼津周辺地域の庶民の間に広く配布されたことが伺える。

「能き物」とは健康に良い食品のことらしく、そこに列挙されている食品は百一種類である。たとえば野菜では「長いも」「大こん」「にんじん」「さつまいも」「ふき」、果物では「みかん」「かき」「ぶどう」「なし」、海産物では「わかめ」「小だい」「いか」「あわび」、その他「とうふ」「たまご」等々である。最後は「右之品何もよろしく尤しほからきものハ一切利なし」と結ばれており、塩分の取り過ぎが

陸軍医局（沼津病院）頭取の杉田玄端は、まだ江戸にいた慶応三年（一八六七）に『健全学』という翻訳書（イギリス人による原書をオランダ人が翻訳し、それをさらに邦訳したもの）を出版しているが、それは今日で言うところの保健学の先駆的な書物であった。

その中には当然「食物及び消費機の論」「食料の論」といった章があり、食品と健康との関わりが紹介されていた。

沼津で印刷された「能き物」は『健全学』を前提にした杉田の見識にもとづくものであろう。

陸軍医局では民衆に種痘を奨励する「種痘弁」という印刷物も出しており、地域医療活動に積極的な姿勢をみせている。ここに紹介した「能き物」も同様の事実を裏付けるものであり、沼津病院関係の数少ない史料である。

能き物

- あり ○長いも ○まいたい ○大ん ○あかん ○かぶ
- さくら ○ねいも ○つくも ○むらご ○きんぎょ ○な
- ふき ○あさ ○つくー ○うき ○さん不 ○あそ
- はかん ○くあ ○よんふ ○ひより ○あんき ○わらわら
- わらわら ○きく ○ゆが ○せうが ○うじ ○ゆがが不
- （ちま） ○あろり ○まつけ ○どうご ○いんせん ○すまげ
- ふたまめ ○かまめ ○たつき ○さげ ○やまや ○くらまめ
- かんひょう ○せんまい ○きうほ ○ごま ○かんでん ○あぶ
- くま ○ごうふ ○みん ○かき ○ぶどう ○ちり
- せいご ○たくけん ○たきけ ○大むき ○こんぶ ○ひよこ
- わらわ ○あしち ○たきり ○たきまつ ○もつひ ○きん
- さより ○らまぶ ○わらぐ ○かきら ○小ぶい ○かまめ
- 山外れ ○みびめ ○あびめ ○たいあめ ○いりち ○いん
- あつこ ○せいご ○すじん ○か不こ ○わむあ ○かさご
- らあり ○もうを ○いより ○ろろ泥 ○たんち ○あまひ
- あまご ○ふふ ○こい ○どせう ○あまご ○いっ
- かき ○あひい ○あすと ○らまぶ ○ごうら

右之品何もよろしく尤しほからきものハ一切利なし

陸軍医局

江原素六とその周辺〈21〉

国粹主義者と江原素六

江原素六関係文書には七九〇通以上の素六宛書簡が含まれているが、そのひとつに以下のようなものがあつた（江原家文書E-a-21）。

肅啓 時下益々御清祥奉賀候、
 本会設立以来一年有半を経過して日々国家社会の爲めに幾分之貢献を爲し来りしは偏ニ閣下の御声援ニよるものと感謝之至リニ不勝候、現時之実勢ニ顧ミテ益々邦家之爲めに微力を尽すべき秋ニ方り、閣下を御煩して本会の賛助員ニ御願致し度、此段得貴意候 勿々敬具

大正十一年二月廿日

大和民労会

総務河合徳三郎

江原素六様

大和民労会とはどのような団体であろうか。『角川日本史辞典』の「右翼運動」の項目をひくと、「本格的には第一次大戦後、大正デモクラシーの風潮に対抗して展開、

1919（大正8）大日本国粹会・関東国粹会、21大和民労会などが設立され、大衆運動・労働争議への暴力的介入が激化した」とあり、大正デモクラシー期に結成された代表的な右翼団体であつたとがわかる。

河合徳三郎なる人物は、東京の土木建築請負業者であり（『大衆人事録 昭和三年版』）、最初大日本国粹会の結成に関与したが後に分派したらしい。大和民労会は大正十年（一九二一）一月に自由人連盟主催の演説会を襲いアナキストの詩人松本淳三を刺すなどの行動に及んだが、それに憤慨した社会主義者たちも赤色防衛団を結成し浅草観音堂裏の大和民労会本部にデモをかけるなどの対抗措置に出たことが知られる（今井清一『日本の歴史23大正デモクラシー』）。同会は憲政会や立憲政友会といった既成政党をバックにしていたらしい（京都大学文学部国史研究室

編『日本近代史辞典』付録「右翼団体系統図」）。

急速な社会主義運動・労働運動の展開に危機意識を抱いた政権政党である立憲政友会では、大正七年（一九一八）その院外団ともいふべき大正赤心団を組織したり、翌年床次竹二郎内相が斡旋して大日本国粹会を結成させたりといった具合に反動勢力を利用してデモクラシーを抑え込もうとした。

江原宛のこの書簡は、大和民労会が政界での支持者のひとりとして立憲政友会の長老たる江原を見込み、賛助員への就任を依頼したものであろう。

立憲政友会所属の政治家の中には大日本国粹会の会長になつた村野常右衛門のような人物もあつたが、江原は国際派のリベラリストであり、社会問題を憂慮する点では同じでもその解決の求め方は全く逆であつたといえる。このような団体からの就任依頼に応じたはずはないであらう。

しかし、大正デモクラシーの理論的指導者吉野作造のような人物に尊敬された一方で、江原はその

正反対の陣営からも敬意を表される存在でもあつたようだ。

昭和二十年（一九四五）終戦時に文部大臣をつとめていた太田耕造（一八八九—一九八一）は、東京帝国大学在学中、吉野作造らの指導の下に設立され社会主義運動の源流となつた新人会に対抗し、興国同志会という学生団体をつくり国家主義運動を進めた人物であるが、卒業後に参加した国家主義団体国本社機関誌『国本』に、「江原素六翁を憶う」という文章を寄せ、江原の死を悼んだ（『国本』第二巻第七号、大正十一年七月一日、亜細亜大学発行『アジアの夢と青年への期待—太田耕造先生論説選—』一九八七年所載）。

太田は江原について、「翁を一言にして尽せば偉大なる凡人であつた。何等の奇なく、飾りなく然かも涙に脆き情に熱き先生であつた。然り真の先生であつた。而してその最も偉大な感化力を絶えず見えざる世界に放つていた。」と評している。

左右両陣営から一目置かれた晩年の江原であつた。

お知らせ欄

◎企画展「館蔵書画名品展」の開催について

去る十二月二十一日(火)から二月二十七日(日)までの開期で企画展「館蔵書画名品展」を開催しております。これまで当館に寄贈・寄託された史料の中から、近世・近代の書家・画家・名士の墨蹟を紹介するものです。

今回が初公開の史料が少なくありません。この機会にどうぞ御鑑賞下さい。

主な展示品の作者は、頼山陽・菅茶山・大窪詩佛・貫名海屋・巻菱湖・谷文晁・横井金谷・山東京伝・河鍋曉斎・長三洲・西郷隆盛・中村不折・高浜虚子などです。



貫名海屋書画

◎沼津市明治史料館史料目録15の刊行について

『原渡辺家文書目録』、B5判二四一頁、頒価一三〇〇円。当館に寄贈された原渡辺家(本陣)、同じく渡辺家(八郎)の二軒の旧家の文書目録です。

◎受贈刊行物の紹介

葦山町史第七巻・第九巻(葦山町史編さん室)、裾野市史第四巻・茶畑の民俗・裾野市史研究第五号(裾野市史編さん室)、竹と生活・三島宿本陣家史料集9(三島市郷土館)、登呂遺跡第一次調査の記録(静岡市立登呂博物館)、写真集静岡県の絵はがき(羽衣出版)、静岡の文化第35号(静岡県文化財団)、三島大社関係文書目録(静岡県教育委員会)、金谷町

史料目録二(金谷町役場)、舞阪町立郷土資料館年報第2号・舞阪の大漁旗(舞阪町立郷土資料館)、小山町の歴史第7号・小山町史資料所在目録第16集・第17集(小山町町史編さん室)、沼津史談第44号(沼津史談会)、豊岡村史料編一・二(豊岡村)、高林家史料三(浜松市立中央図書館)、15年のあゆみ(裾野市立富士山資料館)、地方史静岡第21号(地方史静岡刊行会)、目で見る沼津・駿東の100年(郷土出版社)、静岡銀行史(静岡銀行)、伊豆の郷土研究第18号(田方地区文化財保護審議委員連絡協議会)、静岡県立中央図書館蔵書目録第8巻(静岡県立中央図書館)、内田旭著作集一・遠江十六号(浜松史蹟調査顕彰会)、富士市史資料目録第4輯(富士市)、修善寺町所蔵近代日本画(修善寺町)、新居ものがたり(新居町教育委員会)、石津の民俗・北松野の民俗・静岡浅間神社界隈の民俗・静岡県史研究第9号(静岡県教育委員会史編さん室)

以上最近受贈の県内関係のもの。博覧都市江戸東京展(江戸東京博物館)、草薙金四郎文庫目録(瀬戸内海歴史民俗資料館)、浄土信仰の美(長野市立博物館)、明治時代の八王子(八王子市郷土資料館)、渋沢研究第6号(渋沢史料館)、豊島の集団学童疎開資料集5(豊島区立郷土資料館)、埼玉県立行政文書総目録第5集(埼玉県立文書館)、渡辺家史料目録(柳川古文書館)、モース博士と大森貝塚(品川区立品川歴史館)、藤沢市文書館紀要十六(藤沢市文書館)、茨城県立歴史館報第20号(茨城県立歴史館)、寒川町史11(寒川町)、地域史研究はこだて第17号(函館市史編さん室)、市史にいがた第12号(新潟市)、松戸写真館(松戸市立博物館)、世田谷区史料叢書第八巻(世田谷区立郷土資料館)、三井文庫論叢第26号(財団法人三井文庫)

以上最近受贈の県外関係のもの。

沼津市明治史料館通信 第36号
編集 沼津市明治史料館
発行

〒410沼津市西熊堂三七二-一
電話 〇五五九-二三三三三三五
FAX 〇五五九-二五三〇一八